

西部公民館だより

発行 西部公民館
神ノ郷町吉町田12-1
TEL:68-7233

令和5年度上期公民館事業計画

日程	事業名称	実績	備考
4/8(土)	公民館運営審議会(1)	済	
4/8(土)	学区体育祭実行委員会(1)	済	
4/15(土)	クラブ代表者会議	済	
4/22(土)	学区体育祭実行委員会(2)	済	
5/13(土)	すこやか講座(1) 三代目グラウンドゴルフ大会		
5/13(土)	学区体育祭実行委員会		
5/20(土)	学区体育祭		
6/7(水)	すこやか講座(2) 健康教室		
6/28(水)	すこやか講座(3)どうする家康 前半(総集編)		
7/12(水)	すこやか講座(4) 交通・防犯教室		
8/1(火)	自然観察と体験学習		
8/19(土)	公民館運営審議会(2)		
9/2(土)	神ノ郷町敬老会		
9/13(水)	すこやか講座(5) 健康教室		
9/24(日)	みんなで歩こう健康づくり大会		

※日程、事業内容に関しては都合により変更する場合がありますので
ご承知置き下さい。

くるりんバス情報

4月から柏原町まで延伸し、運行ルートが変更になりました。お出かけにいい気候になり、ゴールデンウィークもあります。みかんの丘くるりんバスに乗って、新しいルートぐるっと一周したり、普段あまり行くことのない停留所で降りて散策を楽しんでみるのはいかがでしょうか。
新年度の市内くるりんバスの時刻表ルートMAPは公民館に有りますので、必要な方は自由にお持ち帰り下さい。

令和4年度の一便辺り乗車人数は1.3人で令和3年度と比べて横ばいでした。

第1回公民館運営審議会&第1回学区体育祭実行委員会

4月8日(土)午後7:00より公民館運営審議会を実施

令和4年度の事業実績報告及び令和5年度の事業計画及び予算に関する説明。
西部公民館の活動方針である「あつまり」「まなび」「ふれあい」をモットーに地域に密着した公民館活動を目指す諸事業の行事予定表、歳入歳出予算書について審議を行い承認されました。

4月8日(土)午後7:45より第一回学区体育祭実行委員会を実施

学区体育祭開催日は5月20日(土)です。雨天の場合は翌日21日(日)になります。開催判断は午前の小学校の判断に合わせます。
4月22日、5月13日に実行委員会を開催します。今年は現時点ではコロナ感染もおちついており例年と同様の競技種目で開催できると判断しておりますので、今後の実行委員会でメンバーからの声を反映し各種取り決めを実施して参ります。



クラブ代表者会議

4月15日(土)19:00よりクラブ代表者会議を開催しました。
今回はクラブ数が8クラブと昨年より2クラブ減少しました。各クラブともコロナ、高齢化の影響でメンバーが減少してきており、新規入会者の獲得が課題との認識は同じでした。
今後、公民館だより、市内公民館へのチラシ設置などを通して多くの人に周知してもらうよう公民館として支援活動を実施していくことで各部長と合意しました。



春の全国交通安全運動開催



5月11(木)～20日(土)は令和5年「春の全国交通安全運動2023」が実施されます。

- 運動期間 令和5年5月11日～20日までの10日間
- 交通事故ゼロを目指す日5月20日(土)
- ◆全国重点実施事項は次のとおりです。

【交通安全運動の重点】

- (1) こどもを始めとする歩行者の安全確保
- (2) 横断歩行者事故等の防止と安全運転意識の向上
- (3) 自転車のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

交通安全運動へのご協力をお願い致します。

上ノ郷城跡保存研究会令和5年度総会、観桜会、城跡整備実施

4月2日(日)城跡主郭跡にて保存会総会及び観桜会が開催されました。
4月15日(土)春の城跡整備作業が雨天順延で16日(日)に実施されました。

令和5年度研究会城跡整備計画予定

- | | | | |
|-----------|--------|---------|------|
| 1.春の整備作業 | 4/15日 | AM 8:00 | 雨天順延 |
| 2.追加整備作業1 | 6/24日 | AM 8:00 | 同上 |
| 3.追加整備作業2 | 7/22日 | AM 8:00 | 同上 |
| 4.秋の整備作業 | 9/16日 | AM 8:00 | 同上 |
| 5.追加整備作業3 | 12/23日 | AM 9:00 | 雨天中止 |
| 6.追加整備作業4 | 3/2日 | AM 9:00 | 同上 |



【総会の様子】

今年は大河ドラマの影響で城跡に見える観光客の方が非常に増えていることもあり、整備作業の回数が例年より4回増えています。

【上ノ郷城跡花いっぱい活動】

今年も3年目の花いっぱい活動を計画しています。スイセン球根の寄付をお願いします。

植え付け実施日

10月21(土) 10:00~11:00



【整備作業前】



【整備作業後】

鶴殿氏のその後1

上ノ郷鶴殿

鶴殿長持一長照
氏長
氏次

柏原鶴殿

鶴殿長忠一お葉
督姫
家康

上ノ郷鶴殿氏は松平元康の上ノ郷城攻めにより長照は討ち死に、氏長、氏次は瀨名姫、信康との人質交換後に今川氏への帰参ができませんでした。その後今川氏の没落に伴い、家康に仕えました。氏長は1700石余りを領し、子孫は旗本となったが4台目氏基のとき子が無く、弟・源之丞への名跡継承で減封され蔵米300俵となり、さらに源之丞も無嗣断絶となり上ノ郷鶴殿氏直系は絶えた。氏次は深溝松平家忠に属し、関ヶ原の合戦の前哨戦といわれる伏見城の戦いにて家忠とともに戦死している。

柏原鶴殿氏は長持の弟・長佑が興した、その長佑の死後、上ノ郷鶴殿長照の弟・長忠が養子に入り家督を継いだ。
柏原鶴殿は松平方に転属している。

長忠には養女のお葉(後の西の郷の方)がおり家康の第一側室となり、家康との間に督姫を設けている。

督姫は北条氏直の正室として嫁いだ。氏直の死後、池田輝政に再嫁。

長忠の子・長次は良正院(督姫)の叔父にあたり、その縁で1613年5,000石で池田忠継の後見人として迎え入れられて以降、池田家に仕えた。なお長次の後を継いで池田家に仕えたのは四子の大隅守長定、別家として池田家臣となったのが5子・藤右衛門長義であり、長定の兄3人は父とは別に旗本として取り立てられている。

1632年の鳥取転封後は因幡国岩井郡を始めとする地域に所領を与えられ、浦富の町政が委任された。鳥取藩に仕えた鶴殿氏の中でも4代・長春、11代・長発は学問に秀でており、共に財政分野の知識に明るく重用されたことで知られている。

長発の子の一人は鳥取藩家老の清和源氏満政流和田氏に養子に入り、和田信旦と名乗った。その娘の碧川かたは婦人運動家として活動し、龍野藩家臣の家系の三木節治郎と結婚して三木露風らを生んだ。

三木露風は近代日本を代表する詩人で北原白秋と並び「白露」時代を築いた。

童謡「赤とんぼ」の作詞者としても知られる。

西部小学校校庭の石碑に関して

西部小学校東側校門入ってすぐの所に石板があります、これは西部小学校初代校長の藤岡翁の頌徳碑です。学区体育祭などで小学校に行かれる折に、ご覧下さい。

※頌徳碑(しょうとくひ)とは偉人、先覚者等の徳を褒めたたえる文章を刻んだ碑のことです。

月給一円五十銭の校長 (蒲郡風土記より転載の為、現在と差異があります)

蒲西公民館の前に、石組みもいかめしく立派な碑が建っている。蒲西小の初代校長、藤岡翁の頌徳碑である。上ノ郷に、はじめて学校が出来た時、旧西の郡藩士、槍術指南役の藤岡増五郎が、教員講習を受けて、速成訓導として校長に就任したので、西部校の歴代校長履歴書のいちばんはじめに綴じこんである。月給はたしか一円五十銭だったように記憶している(間違っていたらごめんなさい)安月給と思うなかれ、当時の米一升は一銭五厘を高いとして米騒動が起きた時代である。

しかも廃藩置県で、チョンマゲを切った土が巷に氾濫した時代、子弟教育に経験のある槍術指南の藤岡翁が、選ばれて校長に就任したことは、当然と思われる。今日の上ノ郷が、蒲郡市内に於ける特別に質実な気風を保っているのは、藤岡翁の薫陶を受けた、上ノ郷の、今は古老と言われる人達に淵源していると言ってもよいであろう。藤岡翁は、旧廓の自宅から紋付羽織に、袴をはき、朴歯の下駄に身をのせ、夏も冬もたしなみよく扇子を片手に、悠然と登校したのだそうだ。

サツソウたる風姿が目に見えるようではないか。生徒は、玄関前に整列して、この校長先生を迎える。翁は終始ニコニコ会釈しながら部屋にはいって鈴をならし、生徒を教室に入れて教壇に立たれた。

一日の授業が終わると、校長先生お帰りである。玄関前に朝お迎えしたように生徒は、整列してこれをお見送りする。徳川時代の塾の遺風とでも言ったらよからうか、とにかく今日では想像も出来ないことである。

この碑、校庭南の桜の根方に倒れかかっていた時、たまたま金石文調査のため、ここを訪れて、初代校長の碑なることを発見して、提案したらさっそく公民館前に移してもらえた。高橋寿太郎校長の時である。碑文は、宝飯地方史資料金石文集の中に収録されている。

〔石碑の訳文〕

翁、姓は藤岡、通称は増五郎、諱は安佐、号は紫香なり。天保五年九月五日蒲郡町に生る。家は世々旧竹谷松平氏の老臣なり翁、天資剛直、幼にして武を喜び、柔術家小田政弼の門に入り、提宝山流の蘊奥を究め、鎗術師平田重認氏の場に升り、種田流の秘奥を究め。又、大郷先生の講庭に侍りて漢学を修む。明治七年二月神の郷村立小学校の聘に応じて教員に就職す。爾來念有五年間、恪勤一日の如く、かつ天稟の康健をもって、一日と雖も欠勤なし。寔に学で厭はず、教へて倦まざるの傑士と謂うべし。一男あり。慎蔵と称す。夙に陸軍士官学校に入り、業を卒へて、近衛師団に奉職す。嘗て日清の役に、抜群の功を奏し、陸軍歩兵大尉に進み、正七位勲六等功六級に叙せらる。あゝ、この父にして、この子ありか今歳、翁の齡耳順に六を添へ以て老を告ぐ、茲に有志諸士相謀り、寿碑を以て、翁の成績を不朽に存せんと欲し、来て余に徴す。余固辞するを得ず、因て、余の知る所を叙して与ふ。

武技はこれ雄。文芸はこれ豪。老て益々豊たり。少曹を愧ず。黽勉事に従ひ、敢て老を告げず。郷党の易俗、其の薫陶に頼り、衆その徳を慕い。石に勒して表褒す。



藤岡 増五郎初代校長
明治8年～明治32年まで
校長を務められた。

